

自分を大切にし相手を思いやることのできる心と自己肯定感を
育む「命の授業」

山口県立高森みどり中学校 PTA

1、所在地	山口県岩国市玖珂町 1253	
2、学校、地域の概要	<p>山口県立高森みどり中学校は、平成15年（2003年）4月に県下初の公立併設型中高一貫教育校として開校し、「多様な交流を創造し、生徒一人ひとりの夢を実現する学校づくり」を教育理念に掲げ、併設型中高一貫教育としての特徴を最大限に生かした学校運営に取り組むとともに、中学校と高校の緊密な連携のもとに、校地・校舎・教育活動を共有し、中・高合同での高森・みどり合祭やウォークラリーなどの特色ある学校行事や地域との交流活動等によって豊かな人間性を育みながら、確かな学力の育成にも積極的に取り組み進路実現に力を入れている。</p> <p>また、県下唯一の高校カヌー部や、弓道部をはじめ伝統や特色のある部活動を有し、特に、吹奏楽部は平素から中・高生が一緒に練習し、同じステージに上がるなど、中高一貫教育校としての特徴を最大限に生かしながら活動している。併せて、中学校でカヌー同好会、高校でホッケー同好会を発足させ、地域と密着した活動を強化している。さらに、平成29年度からコミュニティ・スクールとして地域と連携した教育、地域に貢献する活動に積極的に取り組み、地域に信頼される学校となるよう努力している。</p>	
3、PTA 組織及び活動内容（中高合同）	<div data-bbox="229 1406 778 1771" data-label="Image">  </div> <div data-bbox="852 1406 1362 1771" data-label="Image">  </div> <p>PTA 会長（1名）副会長（5名）校長 教頭 事務長 PTA 担当教職員 評議員（42名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報委員会（11名）PTA 広報誌発行（年2回）、高森・みどり合祭 PTA コーラス ・ 生徒指導委員会（11名）生徒指導に関する学校との連携事業、高森・みどり合祭 PTA バザー ・ 保健委員会（10名）学校保健安全委員会、ウォークラリー支援事業 ・ 進路委員会（10名）PTA 研修旅行、PTA 進路研修会 	

<p>4、研究テーマ</p>	<p>実際に障害をもたれている方から、直接、生活の様子を聞くことにより、特別視するのではなく、知らないことからくる偏見を廃し、一緒に共生社会を生きていくには、普段からどう向き合っていけばよいのか、実際にどう接すればよいのか等について考え、人権の大切さや、一人ひとりの命の尊さについて学ぶ。さらに「金魚」という生き物を扱うことを通じて命の大切さを考えることにより、思いやりの心を育てる。ひいては、それが自己肯定感の醸成につながるような仕組みを考察する。</p>
<p>5、活動内容 * 講演会</p>	<p>生徒一人ひとりが命の大切さに対する認識を深め、さらに、障害ある人を含めた周囲の人々に対し、温かく思いやることのできる力や人権感覚を養うことを目的に講演会を実施した。</p> <p>【実施日時】 令和元年 11 月 20 日 (水) 13:30～15:00</p> <p>【対象】 高森みどり中学校・ 高森高校全校生徒 及び教職員 保護者 (希望者)</p> <p>【場所】 体育館</p> <p>【講師】 NPO 法人ヒカリカナタ基金理事長 竹内 昌彦 氏</p> <p>【演題】 私の歩んだ道～見えないから見えたもの～</p> <p>講師の竹内昌彦氏は「見えないから見えたもの」の著者であり、岡山県立盲学校御在職中から、各地で「いじめ」や「命の大切さ」をテーマに講演活動をされており、その御活躍はテレビにも取り上げられ、著書も映画化されるなどして人々に感動を与えておられる。生徒の感想からもその感動的な講演の様子が伺えた。</p> <p>【生徒の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がどれだけ恵まれているかがわかった。目が不自由でもたくましく生きることができるなら自分もたくましく生きなきゃと思った。 ・すごくいいお話だった。普段あんまり関わりのない障害者の方の話を詳しく聞くことができてすごく良かったと思った。 ・今後自分がどういうことをしたら助けることができるかわかった。周りに気遣いができる人になりたい。いつもは勇気が出ず、行動に移すことができなかったが、町で困っている人を見たら助けたい。 ・障害者の方との接し方や障害に対しての理解についてキチンと学べて、これからは生かしていきたいと思った。 ・今まで障害者の方に対して“かわいそう”などの思いを抱くことが多かったが、今回の講演で大分見る目が変わり、改めて命の大切さ、身の回りの人の温かさを身近に感じた。



- ・これからは優しく温かい人になれるように、人に感謝されることをたくさんしていきたい。特に優しい人になりたいと思った。もっと優しい目と広い心を持って生きていきたいと思う。
- ・優しく勉強ができる人になれたらいいなと思った。勉強だけを伸ばしても意味がない。優しさの上に勉強を伸ばしてという言葉が心に響いた。
- ・話が上手でとても興味をもって聞くことができた。面白いのに心に響く言葉ばかりでとても楽しく話に聞き入ることができる講演会だった。
- ・健康に産まれたことを当たり前と思わず、しっかり生きていきたい。自分が苦なく生活できていることをありがたく思いたいと改めて思った。



*金魚すくい

【実施日】9月1日(土) 高森・みどり合祭(文化の部)

高森みどり中学校では、高校と合同で9月最初の土日に「高森・みどり合祭」として、土曜日に文化祭、日曜日に体育祭を実施している。

中学生は、合唱コンクール、劇、俳句甲子園等の舞台発表があり、高校生と一緒に模擬店なども楽しんだ。

PTAも毎年コーラスやバザーで参加している。今年も大盛況であった。



その中で、今年は新たな取り組みとして、大村校長が金魚すくい名人と言うこともあり、PTA主催による「金魚すくい」を行った。

生き物を扱うということは、直接、生き物の命を扱うことであり、ただ、金魚をすくうという行為だけではなく、傷つけずにすくうためにはどうすればいいのか、すくった後はどうすればいいのか、本当に家に持って帰って飼うことができるのか、など考えないといけないこと、生き物を飼う覚



悟のようなものまで問われることで、保護者の方も含めて、命について考えるきっかけとなったのではないかと考える。



6、成果と課題

【成果】

竹内昌彦氏の著書「見えないから見えたもの」の結びに、「今日本では、毎日九十人の人たちが自殺をしている。彼らのほとんどは、目が見える人たちだと思う。障害があってもなくても抱えている困難は同じであり、誰の苦しみが大きく、誰の悲しみは小さいと誰も決めつけることは出来ない。その人たちにとっては命を捨てたいと考えるほど重大なものなのである。身の回りにも苦しんでいる人たちは大勢いる。少しの思いやりをもってその人たちに声をかけることはできないだろうか。自分のことだけを考えるのではなく、いつも周囲の人たちに、優しい心と目を向けられる人が、本当の意味で賢い人だ。そう言う優しさを持てる人が、本当の意味で強い人であり、人権を大切にできる人である。こういう人たちで世界が埋まったとき、障害者はもちろん、健常者も安心して生きていける社会になる。何が起きても、将来に絶望するのではなく、夢と希望を語る事が出来るような社会を、人間なら作る事ができると、私は信じている。」と述べられている。

今回の講演会や生き物を扱う活動を通じて、

- ・ 与えられた身体と命を大切にし、たくましく生きていくことの大切さ
 - ・ 周囲の人に優しく接することの大切さ
 - ・ 保護者への感謝の気持ちを持つこと、表すことの大切さ
 - ・ 困っている人への声のかけ方、接し方
 - ・ 命を粗末に扱ったり、いじめは絶対にしてはいけないこと
- 等を学ぶことができた。

【課題】

課題としては、今回の素晴らしい学びや思いを、生徒たちがいかにして継続して持ち続けることができるかということにあり、その継続の上に自己肯定感の醸成があるため、更には、生徒たちが実生活でその学びをいかすことができるようになることがある。そのためには、

- ・ あらゆる場面で、継続した取組をしていくこと。
- ・ 実際に学びを実践している場面を仕組むこと。

が、今後の取組として重要であると考えます。